

子育て支援メッセいしかわ 2024 ～親子で楽しんでもらえる時間を～

団体名●芥川ゼミナール / 子育て支援メッセ実行委員会(事務局:(公財)いしかわ結婚・子育て支援財団内)
代表者名●芥川元喜 (人間科学部・准教授)

はじめに

芥川ゼミナール2年生と3年生が「子育て支援メッセいしかわ2024」(子育て支援メッセ実行委員会主催:11月17日(日))に参画をさせて頂いた。

「子育て支援メッセいしかわ」は6年続けて、6回目の参加をさせて頂いた。会場は、石川県産業展示館4号館で開催された。

1. 企画・準備段階の活動

ゼミ生は、6月に、実行委員会の担当者、小倉優太さん、村上昌稔さん(公益財団法人いしかわ結婚・子育て支援財団)から直接、開催の趣旨説明をお聞きし、自分たちでどんなことができるかを考えるところから始まった。また、実行委員会の小倉さんから、やってみたいことを自分たちでゼロから考えて、と、学生の主体性を尊重するように学生を導いてくださったおかげで、学生たちはやる気になり、任された各ブースに強い責任感を持って取り組み始めた。



(1)「親子であそぼう!わくわくランド」の企画

2年生では親子で一緒に楽しんでもらえる企画を考えようと話し合いを重ね、「わくわくランド」ブースを企画、運営することにした。

「わくわくランド」では、なんでもつりコーナー、ボール運びコーナー、スマートボールコーナーの3つのコーナーを全て手作りすることにした。実行委員会の小倉さんから助言を受けながら、ゼミの時間以外にも集まり、制作活動を行った。また、参加をし



た子どもたち全員に参加賞としてメダルを渡すことを考え、1000を超えるメダルを全て学生が折り紙等で、手作りした(写真:上)。

(2)「段ボール迷路」の企画(3年生)

3年生は「段ボール迷路」の運営を行うことになり、当日の運営方法や事前に準備するものなどを話し合った。実行委員会の小倉さんからも直接助言を受けながら、迷路に参加する親子の安全を第一にした運営方法について話し合い、事前準備を進めた。

(3)ゼミナール全員の力で連携して取り組む

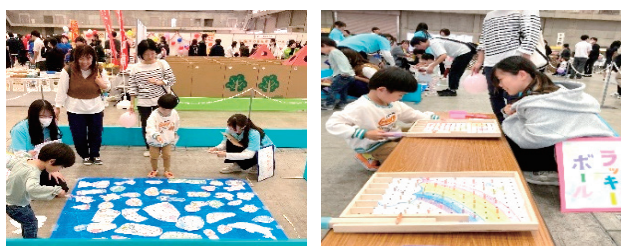
当日は安全にコーナーを運営するために、芥川ゼミ4年生の4名も応援に加わり、運営することとした。

その為、学生同士の事前の打ち合わせも複数回、入念に行った。

2. 開催当日の活動

(1)「わくわくランド」の運営(2年生)

産業展示館4号館前には開場前から、多くの親子が行列をつくり、活気にあふれていた。開場とともにコーナーに走ってきてくれた親子もいて、開場から間もなく、満員になった。学生が手作りした遊びコーナーで、参加した子どもたちは楽しそうに遊ぶことができていた。



(2)「段ボール迷路」の運営(3年生)

3年生8名の学生たちは受付、行列の整理、それぞれの担当場所で安全確認を行った。多くの御家族が参加して下さり、段ボール迷路を楽しんでくださっていた。迷路の中で迷子になる子の救出や、迷路の中



で泣いてしまった子どもを抱きかかえて出してあげる等、臨機応変、子どもたちが安全に楽しめるように支援を行った。

3. 成果、結果の考察

メッセは、最終的には、約12,000人の入場者であった。わくわくランド、段ボール迷路も学生の受付集計によると、それぞれ、のべ1,000人を超える入場者となった。学生は企画の話し合い、準備で多くの時間を費やした。しかし、その取り組んだ分、達成感、充実感があった。学生の感想には、会場で「子どもが喜んでました」「ありがとう」「よく考えて作ったね」と、参加して下さった保護者の方から直接、声を頂いたことが嬉しかった、とあった。また、手作りしたコーナーで、子どもたちが笑顔で、楽しそうに遊んでくれたことがとても嬉しかった、とあった。こうした多くの親子との交流は学生にとってかけがえのない体験となった。子育て世代への想像力を働かせながら、自分たちに何ができるのかを考え、ゼロから立ち上げ、具現化できたことは学生にとって確かな学びとなった。

最後に、この活動には実行委員会の方々のお力を借りた。学生の思いやねがいに寄り添って頂いた。こうした方々の温かい支えがあったことも学生たちの大きな励みとなった。感謝を申し上げたい。

